

会員の広場



安全最優先なくして持続的成長なし

山田 豊（東京）

報道によると、「トヨタ自動車グループの不正が止まらない。日野自動車、ダイハツ工業に加え、豊田自動織機でエンジンの認証手続きの不正拡大が明らかになった。開発や納期が短くなり、現場の負担が増して不正につながった」。このほかにも三菱電機の品質不正、ビッグモーターの保険金不正請求などの企業不祥事が相次いでいる。この

背景には、経営トップから課せられた過大な数値目標達成のため、現場では短期的な視野狭窄、部門利益優先に陥り、安全最優先、法令順守の精神が軽視されているのではなからうか。

企業不祥事を防ぎ安全最優先による持続的成長を達成するためには、以下の三点が大事である。

まずは、5S（整理、整頓、清潔、清掃、躰・作法）が行き届いている職場には不祥事が少ない。風通しの良い職場の観点からは特に躰・作法に相当する挨拶が重要だ。笑顔での挨拶の交換はコミュニケーションの基本。マザーテレサの言葉に、「愛情の反対は憎悪ではなく、無視である」。職場で会っても挨拶がなく、経営者と社員との交流が断絶しているようでは将来展望は描けない。

次には、「逸脱の常態化」への対応である。品質不正など安全基準やマニュアルから逸脱するケ

スでは、いわゆる「逸脱の常態化・日常化」現象が生じている。「マニュアルやルールを逸脱しても問題が起こらないと」、「このぐらいなら大丈夫」という気持ちになる。やがて逸脱が当たり前になる結果、相当の月日を経て法令違反が顕在化する」。このような状態を正常化するには、注意喚起だけでなく、チェックシート、ダブルチェック、定期的な監査などといった仕組みでカバーすることが不可欠だ。

最後に、経営者には先見力、企画力、決断力が大事と言われるが、不祥事を防ぐためには現場のストレスや疲弊度合いを正確に把握し、迅速に対応する必要がある。いくら経営理念が立派でも現場に浸透しないようでは無意味である。風通しの良い職場を訪問すると、経営トップ自らが現場に赴き意見交換・交流している風景に遭遇するが、社員

の眼が明るく輝いているのが印象的だった。社員の職場満足度の高い環境では不祥事は起こりにくく、顧客や取引先の満足度も高くなる。経営者が現場観察力、現場との交流力を高めていくことにより不祥事を防ぐことはできるのではなからうか。「商売の極意は、お客様から尊敬・信頼されることにある」との名言があるが、不祥事が続くようでは大事な顧客・取引先から見放されることになるかねない。「SAFETY IS A GOOD BUSINESS」（安全確保は事業繁栄の基盤）。挨拶が活発にかわされ、明るくコミュニケーションが良い職場、社員が働きやすく快適に仕事ができる職場では、報告・連絡・相談も円滑に行われる。その結果、企業不祥事や事故は起こらず、安全最優先の持続的成長が達成できるのではないかと考えている。